

平成27年度人権啓発講演会(矢崎節夫さん)講演概要

新宮市では平成27年9月5日(土)、新宮商工会議所において金子みすゞ記念館館長の矢崎節夫さんをお迎えし、『みんなちがって、みんないい。～金子みすゞさんのうれしいまなざし～』を一冊に講演会を開催しました。記念館長の矢崎さんの分かりやすい優しい口調のお話しの、来場された約250人の皆さんは、熱心に耳を傾けていました。

また、アンケートも実施し、約69%の方からご協力をいただきました。その中で、「言葉の大切さが分りました」「心に響くお話でした」「心にしみるお話でした」「みすゞ記念館に行ってみよう」などの感想が寄せられています。詳しくは、一覧表のアンケート欄をクリックしていただきますと、アンケート集計結果のPDFファイルがご覧いただけます。



金子みすゞさんの詩を朗読する神倉小学校の児童たち

金子みすゞさんは、大正期の童謡詩人。大正末期に作品を発表し称賛されたが、昭和5年、26歳の若さで世を去った。没後、作品は埋もれていたが、矢崎さんの努力により遺稿が見つかり、昭和59年に「金子みすゞ全集」として出版。世に広まり多くの共感を得ました。

当日は、矢崎さんの講演に先立ち、神倉小学校児童(8名)による、金子みすゞさんの詩「大漁」「わたしと小鳥とすずと」の朗読がありました。



矢崎さんは、みすゞさんの詩を紹介しながら、「みんなちがって、みんないい」は、生まれてだけですばらしい。百点満点ということ。子どもたちに『あなたは宝物』と繰り返し言ってほしいと述べました。

矢崎さんは、イワシの大漁に沸く人間でなく、仲間を失い悲しむイワシの心情を表現した『大漁』に出会って、「イワシは人間に食べられてあたり前」と思っていたが、「イワシを食べて生かされている」ことに気づかされた。また、これまでの考え方の変化について、「私とあなた」と思っていたのを、「あなたと私」に変えられた。相手に寄り添って初めて理解できる。あなたと私はそれぞれ大切と語りました。



また、『こだまでしょうか』では、子どもが「痛い」と言えば、「痛いね」という親が減っている。「痛い」という子どもに「痛くない」「泣くな」に変わってきている。大人がこだまを忘れている。まず、うなずいてあげることが大事。否定されると心を閉ざす。寄り添ってこだましてあげる。一人でないと気付かせてあげるだけでいい。

『わたしと小鳥とすずと』では、どんなにできてもできないことがいっぱい。気づかせてくれたのは小鳥、すず。あなたと私、どちらも大切。みすゞさんの詩を声に出して読んでみてほしい。誰の心にもみすゞさんがいる。生活の中にちょっとみすゞさんを入れてくれればと述べました。

講演する矢崎節夫さん(新宮商工会議所) 平成27年9月5日(土)

講師欄の講演会資料1、講演会資料2をクリックしていただくと、講演会当日の配布資料(金子みすゞさんの詩)のPDFファイルがご覧いただけます。